

安全データシート

作成日 2024年6月17日

1. 製品及び会社情報

製品名 ジイソプロピルアミン

供給者の会社名称 アーク株式会社

住所 大阪市北区西天満3丁目10-3

電話番号 06-6809-5970

FAX 番号 06-6809-5975

推奨用途及び使用上の制限 医薬・染料中間体

2. 危険有害性の要約

GHS 分類 JIS Z 7252 : 2019 および JIS Z 7253 : 2019 使用

物理化学的危険性

引火性液体区分 2

健康に対する有害性

急性毒性（経口） 区分 4

急性毒性（吸入） 区分 3

皮膚腐食性／刺激性 区分 1A

眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 1(呼吸器系)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性） 区分 1

水生環境有害性 長期（慢性） 区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報 引火性の高い液体及び上記

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷

飲み込むと有害

吸入すると有害

臓器の障害：呼吸器系

水生生物に有害

長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

【安全対策】 炎および高温のものから遠ざけること。

吸入しないこと。

環境への放出を避けること。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

換気された場所でのみ使用すること。

取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。

保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。

容器は密閉して保管。

容器を接地すること/アースをとること。

防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。

火花の出ない道具のみ使用すること。

静電放電に対し、予防措置を講ずること。

冷所保存。

【応急措置】 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易にはずせる場合は外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。

皮膚や毛髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

直ちに医師に連絡すること。

【保管】 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質／混合物の区別 化学物質

化学名 ジイソプロピルアミン

化学式 C₆H₁₅N

濃度又は濃度範囲 ≥99.5%

CAS 番号 108-18-9

官報公示整理番号

化審法：(2)-136、 安衛法：2-(10)-111

4. 応急措置

吸入した場合 被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。
多量の水と石鹸で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

目に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを容易にはずせる場合は外して洗うこと。
直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
最も重要な徴候及び症状 咽頭痛、咳、灼熱感、息切れ、息苦しさ、胃痙攣、虚脱、痛み、
発赤、水疱形成、熱傷、視力喪失

応急措置をする者の保護 救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤 粉末、泡、二酸化炭素、砂

火災時の特定危険有害性 燃焼や高温により分解し、有毒なヒュームを発生する恐れがある
るので注意する。

特有の消火方法 消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。
関係者以外は安全な場所に退去させる。

周辺火災時、移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

消火を行う者の保護 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入り を禁止する。

作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しない
ようにする。

風上から 作業して、風下の人を待避させる。

環境に対する注意事項 製品が排水路に排出されないよう注意する。

汚染された排水が適切に処理されずに環 境へ排出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法

機材 ウェス、乾燥砂、土、おがくずなどに吸収させて回収する。

大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

付着物、回収物などは、関係法規に基づき速やかに処分する。

二次災害の防止策： 付近の着火源、高温体などを速やかに取り除く。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

火花を発生しない安全な用具を使用する。

回収、中和 情報な

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 取扱いは換気のよい場所で行う。

適切な保護具を着用する。

漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに蒸気を発生させない。

炎および高温のものから遠ざけること。

静電気対策を行う。

設備などは防爆型を用いる。

取扱い後は手や顔などをよく洗う。

注意事項 密閉系、換気を用いる。

安全取扱い注意事項 皮膚、眼および衣類との接触を避ける。

保管

適切な保管条件 容器を密栓して換気の良い冷暗所に保管する。

不活性ガスを充填する。

湿気を避ける。

施錠して保管する。

酸化剤などの混触危険物質から離して保管する。

避けるべき保管条件 湿気、空気

安全な容器包装材料 法令の定めるところに従う。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 密閉化した設備又は局所排気装置を設ける。

取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄用の設備を設ける。

管理濃度 日本産業衛生学会 許容濃度 設定されていない。

作業環境評価基準 設定されていない。

米国産業衛生専門家会議(ACGIH) TWA : 5ppm Skin

保護具

呼吸器の保護具 防毒マスク、自給式呼吸器、送気マスク等。

手の保護具 不浸透性の手袋。

目の保護具 保護眼鏡（ゴーグル型）。状況に応じ保護面。

皮膚及び身体の保護具 不浸透性の保護衣。状況に応じ、保護長靴。

適切な衛生対策

産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

安衛則の皮膚等障害化学物質等に該当する製品は、厚生労働省のマニュアル等に従い、適切な皮膚障害等防止用保護具をご使用ください。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态(20℃) 液体

色 無色 ~ ほとんど無色

濁度 透明

臭い 刺激臭

融点/凝固点 -61℃

沸点又は初留点/沸騰範囲 84℃

引火点 -7℃

燃焼又は爆発範囲

下限 1.1vol%

上限 7.1vol%

自然発火温度 285℃

分解温度 情報なし

pH 塩基性

溶解度 エタノール、アセトン：溶けやすい

水：やや溶けやすい

蒸気圧 データなし

密度及び/又は相対密度 0.713~0.718g/mL (20℃)

相対ガス密度 3.5

オクタノール/水分配係数 データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

反応性 データなし

化学的安定性 光により変質するおそれがある。

危険有害反応可能性 特別な反応性は報告されていない。

避けるべき条件 高温、直射日光、熱、炎、火花、静電気、スパーク

混触危険物質 強酸化剤

危険有害な分解生成物 一酸化炭素, 二酸化炭素, 窒素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性 orl-rat LD50 : 770 mg/kg (ACGIH(7th,2001)、PATTY(6th,2012))

ipr-mus LDLo : 250 mg/kg

skn-rbt LD50 : >10,000 mg/kg (ChemID(Access on January 2018))

inh-rat LC50 : 4.8 mg/L 2h

皮膚腐食性/刺激性 ウサギを用いた皮膚刺激性試験(OECD TG 404 準拠)で、本物質の3分間の適用で24時間以内に明らかな壊死の証拠が観察されて乾燥と粗面化が続き、落屑や開放創を生じて瘢痕となった。

皮膚組織は全層にわたり非可逆的損傷を示したとの記載(ECHA登録情報(Access on December 2021))がある。

また、本物質を含むアルキルアミン類は強い皮膚刺激性及び腐食性を示すとの記載(SIAP(2013))や、本物質のpHが12.5であったとの記載(HSDB(Access on August 2017))がある。以上より区分1Aとした。

眼に対する重篤な損傷/刺激性 eye-rbt 250 ug/24H SEV

生殖細胞変異原性 情報なし

発がん性 IARC = 情報なし

NTP = 情報なし

生殖毒性 情報なし

特定標的臓器毒性(単回ばく露) ヒトでは本物質は重度の肺刺激性物質であるとの記載がある(PATTY(6th, 2012))。また、25~50ppmの本物質を吸入ばく露した労働者が視覚障害、吐き気、頭痛を訴えたとの報告がある(ACGIH(7th, 2001)、PATTY(6th, 1012))。

実験動物では、いくつかの動物種(明確な記載はないが、同じ参考文献の他の引用での記述からウサギ、モルモット、ラット、ネコの可能性がある)を用いた試験で、2,207 ppm、3時間の吸入ばく露で、流涙、角膜混濁、気道の重度の刺激がみられ、剖検では肺の水腫と出血が認められたとの報告がある(PATTY(6th, 2012))。動物で影響がみられた用量の4時間換算値は1,911 ppm(7.9 mg/L)であり、区分1に該当する。以上のヒトと動物の情報から、本物質は呼吸器を標的臓器とすると考えられる。

以上より、区分1(呼吸器)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 情報なし

誤えん有害性 情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性

藻類 72時間 EC50 : 0.21 mg/L(EPA AQUIRE : 2017, Hanstveit, A.O. et al(1985))

魚類 情報なし

甲殻類 情報なし

残留性/分解性 情報なし

生体蓄積性(BCF) 情報なし

土壌中の移動性 情報なし

オゾン層への有害性 情報なし

13. 廃棄上の注意

適切な保護具を着用する。

地方条例や国内規制に従う。

焼却処理する場合には、アフターバーナー及びスクラバーを備えた焼却炉で焼却する。

空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に行う。

処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上)

国連番号 UN1158

品名 ジイソプロピルアミン

国連分類 3

副次危険性 8

容器等級 II

海洋汚染物質 該当

IMDG(海上)

国連番号 UN1158

品名 ジイソプロピルアミン

国連分類 3

副次危険性 8

容器等級 II

海洋汚染物質 該当

IATA(航空)

国連番号 UN1158

品名 ジイソプロピルアミン

国連分類 3

副次危険性 8

容器等級 II

環境汚染物質 該当

輸送の特定の安全対策及び条件

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にいき、法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

消防法 第4類 第一石油 危険等級II

労働安全衛生法 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条)

名称等を通ずべき危険物及び有害物 (法第57条の2)

危険物・引火性の物(施行令別表第1 第4号)

令和6年4月1日以降

皮膚等障害化学物質等(規則 第594条の2 第1項)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 引火性液体類(危規則第3条 危険物告示別表第1)

航空法 引火性液体(施行起草第194条 危険物告示別表第1)

海洋汚染防止法 施行令別表第1 有害液体物質 Y類物質

化学物質排出把握管理促進法

PRTR法 非該当

16. その他の情報

このMSDSは、我々が知り得た情報を基に誠意をもって作成しておりますが、記載のデータや危険、有害性の評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。ご使用に先立って、危険、有害性情報のみならず、ご使用になる機関、地域、国の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先してください。ご購入頂いた商品は、安全性の点からも速やかに消費されることを大前提としております。その後、新たな情報や修正が加えられる場合もありますので万一ご使用時期が大幅にずれ込んだり、ご懸念を抱かれた場合には、改めて弊社にご相談ください。また記載の注意事項は通常の取扱を対象としたものであって、特別な取扱をする場合は状況に適した安全対策を実施の上、十分な注意を払う必要があります。すべての化学製品は『未知の危険性、有害性がある』という認識で扱うべきであり、

その危険性、有害性も使用時の環境、扱い方、あるいは保管の状態、期間によって大きく異なります。

ご使用時はもちろんのこと、開封から保管、廃棄に至るまで、専門的知識、経験のある方のみ、あるいはそれらの方々の指導のもとで取扱うことを警告します。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるよう、お願い申し上げます。